

(語学研究部)

12月4日に、多賀城市市民活動サポートセンターで行われた「たがさぼのクリスマス 雑貨市 2022」に参加しました。2004年のスマトラ島沖地震で20万人以上の死者・行方不明者という大きな被害があった被災地のタイで、日本の手織り「さをり織り」が被災者の心のケアを目的に導入されました。語学研究部ではそれらの商品を販売しながら、防災について改めて意識してもらうことができました。

【生徒の感想】

今回感じたことは二つです。一つ目は商品を買ってもらうためのアピールの難しさです。作っている人たちの込められた思いを、どのように、短くわかりやすく伝えるかが大切だと感じました。二つ目は協力していただいた多賀城市国際交流協会やボランティアの方々の優しさです。イベント参加は初めてで緊張していたのですが、協会の方にフレンドリーに声をかけていただき、楽しく参加することができました。来年も周りの支えがあることを忘れず頑張りたいです。(1年 阿部寛輝)

事前に被災した外国の人たちが作ったものの良さを一つ一つ学習しました。それを当日伝えたいと考えていたのですが、初めはなかなかできず、お客さんから「どのような商品なの？」と聞いていただいて、それに応えるように伝えることができました。お客さんに助けをいただきながら、貴重な経験ができました。(1年 三浦世那)

販売の経験がなく、不安もありましたが、商品の説明をした後に購入してくれた時は嬉しくなりました。グリーティングカードという、タイの子どもたちが描いて、その収益は子どもたちのもとへ届く商品があったのですが、それを説明すると買ってくれた人が多くて、皆さんの思いやりを感じました。今回の収益がタイの被災者に役立ってほしいと思いました。(1年 渡辺夏凜)

たくさんの方が足を運んでくださいました。多賀城高校の生徒だからと、商品を買っていただいたり、応援の声をかけてもらったり、商品を売るだけでなく、人の優しさに触れることができました。また、出店者の方々も含めて多くの人とコミュニケーションをとることができて良い刺激になりました。(1年 中村優琴)

事前に説明など準備はしたもののやはり不安はありましたが、皆さんとても優しく、気さくな方ばかりでリラックスして楽しむことができました。これは地域の人々の温かさが

あつてのものだと思います。今後もし同じようなことがあれば、そのような環境を作るよ
うな人になっていきたいと思いました。

(1年 寺島 祥)

